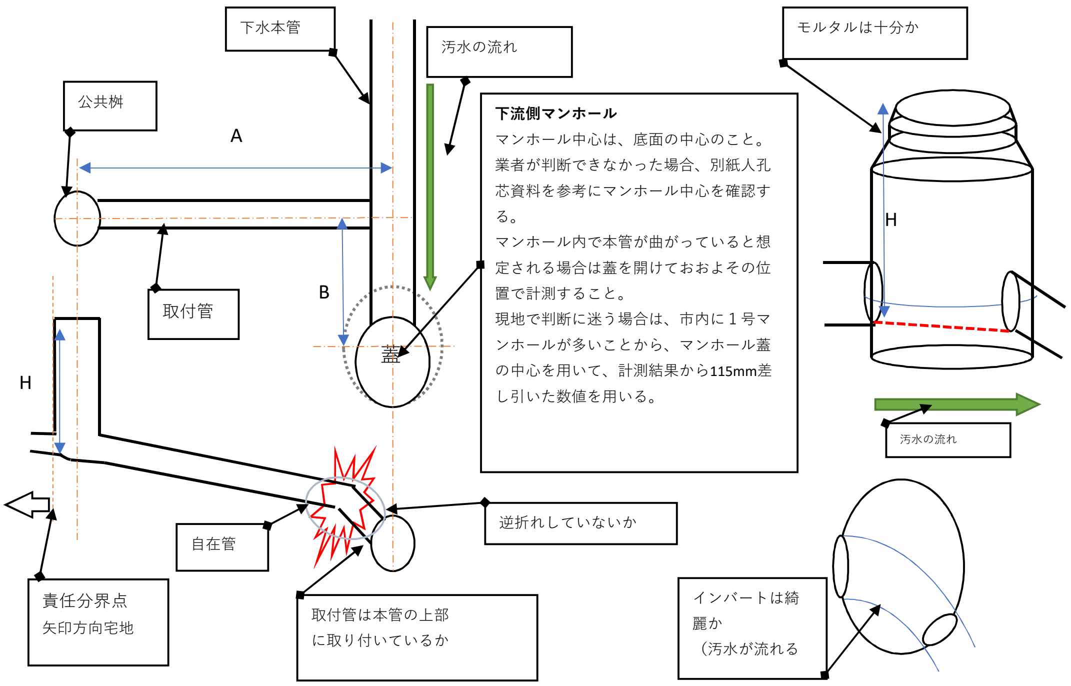
承認工事_検査チェックリスト　（検査に必要な巻尺や鏡等の器具と、マンホール中心の位置は業者に準備させること）

チェック項目（判断に迷う場合は写真等で記録を取り、事務所へ持ち帰ること）	再施工指示	チェック
取付管新設		
公共桝と水道メーター箱の外々の離隔が30cm以上取れているか。 取れていない場合、ヒアリングを行い、協議した記録をメモに残すこと。	要判断	
公共桝と敷地（民民）境界の離隔が50cm以上取れているか。 取れていない場合、ヒアリングを行い、協議した記録をメモに残すこと。	要判断	
図面数値の確認（５cm以上の差がある場合に図面修正指示）		
取付管の延長　※図のＡ （公共桝の中心から本管の管芯までの平面距離）		
公共桝の高さ　※図のＨ （流入側の桝の底から公共桝蓋までの高さ）		
下流マンホール中心から取付管の取付位置までの距離　　※図のＢ		
カメラによる確認（やり直し可能か判断に迷うようなら持ち帰ること）		
公共桝から水を流した時に、本管まで水がたまることなく流れているか。	指示	
取付管内に汚物が引っかかるようなバリや亀裂がないか。	指示	
自在曲管の使用方法が適正か。（逆方向への曲げ施工による帯水はないか）	指示	
聞取り確認等（写真で判別できない場合等）		
直管部が４ｍを超える場合は、４ｍ毎にゴム輪接合を１箇所設けていること。	指示	
塩ビ人孔接続部は異形接手及び自在受口（15°）を使用していること。	指示	
本管の新設		
図面数値の確認（５cm以上の差がある場合に図面修正指示）		
本管の延長の確認（マンホール中心間の距離　または　マーカーピンとの距離）　※別紙参考		
カメラによる確認（原則上流から確認、ケーブル長が足りない場合は下流からも入れる）		
継手部状態（差込不足、離脱等がないか）	指示	
逆勾配不可（帯水していないこと）	指示	
管路に異常（亀裂、凹み）は無いか。（確認できた場合は再施工指示）	指示	
鏡による確認		
管路終端部からライトで照らし、管路の蛇行を確認する。目で見た変形・扁平がないかどうか。	指示	
曲りのある本管に対する追加確認		
曲り箇所にマーカーピンが打たれているかの確認をする	指示	
曲り箇所の位置の確認（＝下流本管からの長さ）		
マーカーピンが正しい位置にあるかマーカーロケーター（施設課持参）で確認する。	指示	
マンホール新設		
図面数値の確認（５cm以上の差がある場合に図面修正指示）		
マンホール内流入側のインバートの管底からマンホール蓋までの高さ		
マンホール中心と、動かない境界からの３点間の距離（平行であれば２点間の距離）　※別紙参考		
目視による確認		
インバートは綺麗に切られており、汚水がスムーズにながれそうか。（主観による）	指示	
底部・インバートに亀裂は無いか。（幅1mm未満、侵入水がないことを確認。）	指示	
管口処理は適正に行われているか。（見た目、モルタル剥離が無いか、侵入水は無いか）	指示	
マンホールの上部モルタル充填は十分か。	指示	



下流側マンホール
マンホール中心は、底面の中心のこと。
業者が判断できなかった場合、別紙人孔芯資料を参考にマンホール中心を確認すること。
マンホール内で本管が曲がっていると想定される場合は蓋を開けておおよその位置で計測すること。
現地で判断に迷う場合は、市内に１号マンホールが多いことから、マンホール蓋の中心を用いて、計測結果から115mm差し引いた数値を用いる。